福岡教育大学・福岡市文学館共催講座

読書の未来

―上野英信自筆原稿デジタル資料の可能性―

記録文学作家・上野英信は、炭坑が消えゆく中、筑豊の炭坑で働く人々の声を届けました。
福岡市総合図書館（福岡市文学館）では、国文学研究資料館の「近代文学者草稿デジタル化プロジェクト」と共同で、所蔵する上野英信の自筆資料のデジタル化に取り組んできました。これまで目にすることが難しかった資料がインターネットを通じて読めるようになり、デジタル資料の読書を通じて学びも変わっていく可能性があります。本講座では、プロジェクトを担当する多田蔵人准教授をお招きし、デジタル化された資料がもたらす読書の未来の可能性について考えます。

日時

2025年6月28日（土）
14:00～15:30（開場:13:30）

定員 40名 参加無料

会場

福岡市総合図書館３階第２会議室
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1
市営地下鉄空港線 西新駅または藤崎駅 下車 徒歩15分
西鉄バス 福岡タワー南口または博物館南口下車 徒歩３分

プログラム

◇開会の挨拶

司会・コーディネーター
久保田 裕子（福岡教育大学教育学部教授）
専門は日本近現代文学。共編著に『21世紀の三島由紀夫』（翰林書房、2015）、『混沌と抗戦―三島由紀夫と日本、そして世界』（水声社、2016）、『三島由紀夫小百科』（水声社、2021）、『三島由紀夫書誌』（日外アソシエーツ、2025）。

◇基調講演「日本近代文学の作りかた」

講師
多田（ただ） 蔵人（くらひと）（国文学研究資料館准教授）
1983年生。東京大学大学院卒業。文学（博士）。鹿児島大学法文学部を経て、現職。
永井荷風を中心として、日本近代文学における「文体」（文章の書きかた）の研究を行っている。

文学作品を「つくる」行為には、ひとつの生き物をつくろうとする挑戦にも似た、さまざまな計算や技術が必要とされます。話の内容の決定、主人公や地の文の言葉づかい、他の作品との関係のつけかたなど、文学者たちは様々な選択を迫られるわけです。
今回は国文学研究資料館がデータベース化している「自筆資料」の画像データを中心として、この「文学の技術」に光を当ててみたいと思います。すぐれた作品の背後には必ずといっていいほど、文学者個人や周囲の人たちの、膨大な準備と試行錯誤がありました。文学の制作過程を明らかにすることで、「文学」が何をめざす分野だったのか、考えてみたいと思います。

◇対談「デジタル資料の可能性」話し手：多田蔵人 × 聞き手：久保田裕子
◇閉会の挨拶

新たな知のアクセスが拓く学びの未来へ。

申込方法

1.応募フォームから申し込む場合
株式会社グラファーが運営する「福岡市電子申請」よりお申し込みください。
応募フォーム：福岡教育大学・福岡市文学館共催講座「読書の未来」応募フォーム

2.ハガキまたはFAXで申し込む場合
応募事項 (1)氏名 (2)郵便番号 (3)住所 (4)電話番号をご記入のうえ、下記宛先までお申し込みください。

当講座へのお申し込みはいずれも先着順で、お一人様一口までとさせていただきます。
いただいた個人情報は、当講座以外の目的には使用しません。

福岡市文学館 Fukuoka Literature Museum
お申し込み・お問い合わせ
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1 総合図書館文学・映像課 福岡市文学館担当
電話：092-852-0606 FAX：092-852-0609 Email：bungakukan@city.fukuoka.lg.jp
福岡市文学館HP： https://fukuokabungakukan.com